

充実した2学期も残すところわずかとなりました。今号では、保幼小連携合同研修会と今年度より新たに開催の運動リーダー指導者養成研修会「集合研修B」の様子をお知らせします。

保幼小連携合同研修会（7～8月） — 自ら生活する力が身に付くために必要なこととは —

新「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の施行から1年。小学校新学習指導要領は来年度から施行されます。大きな節目の時期を保育者と小学校教諭が一堂に会して、様々な角度から問題点を出し合いながら会を進めました。幼児教育と小学校教育の相互理解を通じて考える手立てとなるよう、ブロックごとに保幼小の先生方に日頃の保育・教育実践について話していただき、その後のグループ協議では、子どもが確かな学びを身に付け、自分で考えて行動できるよう指導場面を振り返り、園と小学校で大事にしていること、指導の有効な工夫・実践していることについて話し合いました。9ブロックで出された意見の中から抜粋して紹介します。

保育園・幼稚園の先生より

- ・朝の会で一日の流れや週の予定、月の予定を知る。
- ・時間を意識して生活する。（時計の針を見る、タイマーを使う）
- ・身の回りのことを表示を見たりして、自分で行うことができるようにする。
- ・興味をもって絵本を見たり人の話を聞いたりする。
- ・困ったことを伝えることができるように、伝え方を教える。
- ・保護者にもエピソードを伝えながら、この遊びがこの学びに繋がることなどを発信し、保護者も巻き込んでいくことが必要。
- ・行事の準備など子どもたちに伝え「お子さんに聞いてみてください」と、子どもから保護者に伝わるよう協力してもらう。

保育室～見て分かる表示・様々な工夫

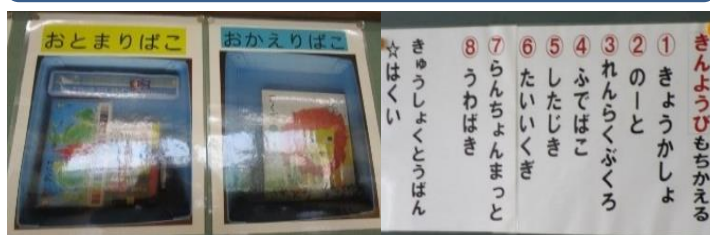


小学校の先生より

- ・身の回りのことを自分でする。
- ・絵本・文字・数字の掲示物に興味をもつ。
- ・見通しや目標をもった生活をする。
- ・当番活動を責任もって行い、友達と協力して活動する。
- ・いろいろな運動遊びに取り組む。
- ・保育園・幼稚園との交流を大事にする。
- ・自立できるためのスモールステップは大切なので、6年生の担任・児童と話しながら進めている。（朝の支度を6年生が手伝う時の段階）
- ・保護者との連携を考え、クラス便りを週1回発行し、子どもたちの様子、時間割や宿題等も載せて、より詳しく伝えるようにしている。

- ※ユニバーサルデザインにより支援をする。
- ・安心できる環境の整備—道具箱の置き方、中身の入れ方など—写真やパワーポイントで示す。
- ・学年で統一した指導をする→2年生に進級して担任が代わっても迷うことがないよう、行うことを共通にしている。

1年生の教室～自分で考える生活・学習へ



校長先生のお話から

- ・10の姿を目指して保育していることを保護者にきちんと伝える。保幼小だけがするのではなく家庭と一緒にやっていく。学級の目標をきちんと家庭に発信していくことが大切。
- ・しっかり遊んでいれば、自分の感情を出したり抑えたりする時の調整力を養える。人への思いやり、相手を傷つける言葉とは何であるか等を経験できる。
- ・先取学習は、学習効果にはあまり影響しない。それよりも、集団の中でのSOSが出せるか、コミュニケーションが取れ、人の話を聞くことができるか、先生の言っていることが理解できるかが大事になってきます。

見て分かる表示



電子黒板

小学校1年生への支援活動（幼児教育センター事業）

幼児教育センターでは、年間を通じて1年生への支援活動（今年度は9校に週1回ずつ）を行っています。接続期の子どもたちが集団の中で自ら進んで取り組んでいく様子や入学当初見られる幼い姿が学習を通して変わり、自信をもち、主体性が育ちゆく姿を捉えることで、幼児期から1年生における学びの連続性について考察を進めています。

